

改革フォーラム

越川 慶一・牧田 俊之
首藤 孝治・松井 雅宏



越川慶一
議員

【代表質問】①市制施行70周年の事業としてプロジェクトンマップピン
グを活用し、これまでの歩みとこれからの苦小牧を描くようなイベントの開催を提案②北海道4番目都市としての果たすべき役割に近隣自治体との連携強化及び今後の自治体クラウドの導入を提案③3月2日現在における統合型リゾートに対する会派の考え方は審議中の国会議論を注視するとともに具体的な法案が示された段階で、しかるべき時期に判断します。その上で現在議論されている制度や規制内容の確認及び昨年の予算委員会での付帯決議に対する事業費活用状況を検証④今後の市税収入の減少や社会保障費の増大など厳しい財政状況が見込まれる中、新たな財源確保策としてクラウドファンディング導入の可能性を提案⑤先進技術を導入する自治体も増えており今後の行政改革におけるICTやAI活用の可能性を提案⑥津波震災への備えとして海岸沿いへの計画的な総合防災無線の整備を提案⑦避難所となる東部小中学校9校にWi-Fi環

境が整備されることを受け市内全小中学校への計画的なWi-Fi環境整備を提案⑧道の駅ウトナイ湖に設置される展望台で天候に左右されることなく観光客が楽しめるVRの活用を提案⑨老朽化が進む総合体育館と日吉体育館を統合し総合アリーナとしての建設を提案⑩町内会活動の支援策として活動活性化条例の制定を提案⑪市民ホールは集客力のある核となる施設の設置を要望⑫苦小牧駅南口のバス停について誰もがわかりやすい案内表示を要望⑬生産性向上特別措置法案の制定を前提に補助金の補助率アップや優先採択などの特別措置が最大限受けられるよう中小企業の設備投資の後押しに繋がる対応を提案⑭学校給食は食育推進の観点からも内容量の早期改善を提案⑮わかりやすい授業に向けて小中学校へのタブレット端末導入による授業への活用を提案など、会派の考えを示しながら課題を提起し議論を展開しました。

【用語解説】※プロジェクトンマップピン(建物などに映像を映し出す技術)※クラウドファンディング(インターネット経由などでの資金調達)※ICT(情報通信技術)※AI(人工知能)※Wi-Fi(パソコンやスマホなどを無線で接続する技術)※VR(感覚を刺激し理工学的に仮想現実を作り出す技術)



牧田俊之
議員

【予算審査特別委員会・一般会計】

一般会計予算委員会、スポーツ施設、企業振興、鳥獣被害、学校図書、給食など8項目について質疑をいたしました。緑ヶ丘陸上競技場のトラックの早期利用、エゾシカの市民生活環境への侵入増加、苦小牧イノベーションマップ事業の周知及び参加の呼びかけ、消防車両の整備計画、学校給食の献立充実などについて質疑をいたしました。エゾシカの市内での駆除事業の展開については、北海道へ要望していくと答弁があり、中学校への司書派遣については中学校長会と協議し必要な支援策を検討したいと答弁がありました。



松井雅宏
副議長

【文教経済委員会】で、本年4月1日から施行する「中小企業振興計画」が示され、12月議会の委員会で求めた「技能士活用」に関する事項を事業一覧へ盛り込むことが報告されました。同時に求めていた「小規

模修繕工事契約希望者登録制度の導入」と「市発注工事の下請を含めた地元発注率の把握と検証」については、計画を進める中で引き続き検討していくむねの先送りの答弁がありましたので、中小企業振興を推進する立場の担当部長自らが先頭に立つて関係部署と調整にあたる必要性について指摘いたしました。



首藤孝治
議員

【厚生委員会】で「医療的ケアを必要とする児童の保護者のショートステイ設立」について質疑し、今回の委員会にて第5期苦小牧市障がい福祉計画(素案)が提出され、計画の中に「医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置」が掲載され保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関による庁内検討委員会が連携し、今後さまざまな対応が協議されることになりました。私からは1日も早いショートステイ設立に向け結果にこだわる協議を実施することを求め、市側からはショートステイ設立に向けた取組を加速し、さまざまな面から検討していくと答弁がありました。